

平成 29 年度 エジンバラ法律英語研修 事後報告書

(研修時法学類 4 年)

1. はじめに

本報告書では、エジンバラ法律英語研修に関して、①授業、②ホームステイ、③観光、の 3 点から事後報告を行う。

2. 授業

授業全般に関しては、個人的には、英語のレベルも内容も適切な難易度であり、有意義なものとなったと感じている。

午前に行われる授業の主な内容は、イギリスの弁護士の種類と役割、司法制度と裁判制度、イギリス法の法源、イギリスの刑法における犯罪と処罰等についてであった。これらは講義形式で、理解し、知識を身につけるというものであったが、学生に考えること・発言することを促すアクティブラーニング形式であったので、よい英語の練習にもなった。また、これらの講義の他には、ポスタープレゼンテーションを行った。イギリスにおける有名な判例を調査し、英語で発表した。ポスタープレゼンテーションを行うのは日本語によるものも含め初めての挑戦であり、他のクラスの留学生や教授が大勢観に来たので、非常に緊張したが、良い経験となった。

午後の授業では主に、授業最終日に行うプレゼンテーション (Research Project) の準備を行った。インタビュー調査の方法や、話し方やスライド作成の方法等、英語によるプレゼンテーションのやり方を学んだ。自身のペアは核兵器に関わるテーマを選択し、内容が少々難解になってしまったため、エジンバラの一般人にインタビューする際は英語で説明することに苦労したが、興味深い結果を得、プレゼンの内容としては一般人にとっても興味を引かれる内容になったと思う。英語をもっと淀みなく話すことができれば、更に完成度を上げることができたと思う。

研修 2 週目で、エジンバラ市にとっては異例と言える大雪が降ったことにより、授業が休講になり、学習や発表準備の時間が少々減少してしまったことは残念であったが、総合的に見れば、満足のいく学習を行うことができた。

2. ホームステイ

今回の研修では、市の中心部で大学からも徒歩 20 分程の近さに位置する一戸建ての家庭に、ホームステイさせて頂いた。住んでいるのは 62 歳のスコットランド人夫婦で、2 人の娘と 1 人の息子、そして彼らそれぞれの子、つまり夫婦の孫にあたる 0~12 歳の子どもたちが、毎日のように訪れていた。彼らに加えて、他の日本の大学から我々よりも 5 か月前からエジンバラ大学で英語を学んでいる女子学生が 1 名、ホームステイしていた。

ホストファミリーとその家族は、スコットランド訛りがあり聞き取るのに苦労したが、

こちらが一度で理解できなかった意思表示をすれば、より分かりやすく言い換えてくれたりもした。一緒に住んでいた日本人学生とも、すべて英語で会話したので、ホームステイ先では、英語によるコミュニケーションの機会が非常に多くあり、リスニング及びスピーキング能力を鍛錬することができた。ホームステイ先で関わったすべての人々が友好的であり、トラブルもほとんどなく、有意義な生活となった。

3. 観光

毎週水曜日と金曜日の午後、そして土日が自由な時間となっていたが、滞在中土日は 2 回しかなく、2 週目は雪のため交通機関が停止し外出不可能となっていたことから、空き時間を利用し観光することはあまりできなかった。

自由時間がわずかな場合は、Princes Street や Royal Mile で買い物をしたり、メインキャンパスの Main Library で見物も兼ね勉強をしたりした。Main Library は PC やブース席、プリンター、カフェ等設備が充実しており、24 時間開館していることもあり、滞在中よく利用する場所となった。最終週には、Arthur's Seat にも登った。エジンバラの顔とも言える Edinburgh Castle は、入場料が高額であったこと、訪れたことがあること、名物である One-o'clock Gun を見物できる時間帯に訪問できないことを理由に、観光を諦めた。

週末には、日帰りでも北イングランドにある New Castle という都市を観光した。London や Glasgow, Lake District は既に訪れたことがあったため、少しマイナーな観光地を旅したいとの考えからであった。往路ではスコットランドとイングランドの街並みや自然を車窓から眺め、到着後は Angel of North という有名な像を見たり、買い物を楽しんだりし、有意義な時間を過ごした。

4. おわりに

2 年半前にもエジンバラ大学で、General English を学ぶ 3 週間のコースに参加したことがあったのだが、今回の研修は、英語能力においても、専門人としても、自身の成長を感じることができたものとなった。本研修に参加することができて、良かったと思う。来年度以降も継続して本研修が行われるのであれば、後輩には参加を強く勧めたい。

ニューキャッスルにあるゲーツヘッド・ミレニアム橋（写真上）。
ホームステイ先付近の雪の様子（写真下）。



エジンバラ大学には教育学部専用のキャンパス、Moray House school of Education があり、私たちはそこで 3 週間の講義を受けた。今冬は金沢も大雪であったが、エジンバラも久しぶりの雪だったようで、2 日間休講になった。本プログラムに参加した目的は、法律英語の学習と全般的な英語力の向上であったが、結論から述べると、目的は概ね達成できたと思う。以下では、講義、ポスタープレゼンテーション、リサーチプロジェクトを中心として、その他様々なカリキュラム、ホームステイの様子、週末の過ごし方について順に報告する。

講義内容は英国の法体系、法源、法曹、裁判制度、民法、刑法等であった。ディスカッションや日本の場合との比較をすることも多く、英語力はもちろん日本の法の理解の向上にもつながった。法律英語をはじめ専門性の高い英単語や表現については、先生がその都度丁寧に説明して下さり、実際にそれらがどのように使われているのかを学ぶことができた。授業のレベルは高くなく、内容も基本的であったため、英国の法制度について知識がゼロであっても、1 年生などで日本の法制度についての学習が進んでいなくても、十分理解できたと思う。授業のスピード、パワーポイント、配布資料なども分かりやすかった。講義中意識するようにしていたことは、先生の説明・質問に対して何等かのリアクションを起こすことである。研修中に先生自身も仰っていたが、特に日本人の学生は反応が薄く、理解したのかどうか先生に伝わらない。質問の答えに自信がなくても、自分の知っている限りで答えるように努めた。この点については金沢大学での事前研修が特に役に立った。マンツーマンで授業を受けていると思って反応すると良い、と事前研修で言われたことを思い出し、遠慮なく発言するようにした。しかし海外から見ればかなり大人しい方であろうと自覚している。今後の大学院での講義でもよりアクティブに参加していきたい。

英国の重要判例についてのポスタープレゼンテーションや、法に関わるテーマを設定して街の人々にインタビューをし、その結果をプレゼンテーションで発表するというリサーチプロジェクトもあった。ポスタープレゼンテーションでは **Defence of Mistake** が初めて裁判で認められた **R v Tolson (1889) 23 QBD 168** を取り上げた。このポスタープレゼンテーションの準備の時に、雪のため大学が休講になった。しかしプレゼンテーションを録音し先生に送り、アドバイスをいただくなど、大学に通えない中でも工夫して準備することができた。発音・文法についてはプレゼンテーションのみならずあらゆる場面で丁寧に指導していただいた。

リサーチプロジェクトでは国際法の分野から核兵器をテーマとして取り上げた。その理由は、イギリスの核兵器はスコットランドに設置されているため、スコットランドの人々とその他のイギリス人（イングランド、ウェールズ、ノースアイルランドの人々）では意識や意見が異なるのではないかという仮説があったことと、昨年 2017 年に国連総会で核兵器禁止条約が採択されたことである。街の人々にインタビューをすると、そのまま議論に発展することもしばしばあり、効果的な英会話の練習になった。インタビュー結果をスコットランドの人々とその他のイギリスの人々とに分けて分析すると、非常に面白かった。簡略化して述べると、スコットランドの人々の方が核兵器についての知識（スコットランドに核兵器が

あること、核保有国、核不拡散条約、核兵器禁止条約等) が深く、核の抑止力に懐疑的で、核不拡散条約上の核保有国も核兵器を手放すべきだという意見が強かった。プレゼンテーションのスキルについても、かなり細やかな指導を受けることができ、非常に勉強になった。今後ぜひ生かしていきたい。

他にも、スコットランド議会の見学や裁判所見学がカリキュラムとして組まれていた。日本の制度との違いを実際に目で見て学ぶことができた。特に裁判所では刑事事件の陪審裁判が行われている様子を見ることができ、興味深かった。ホストファミリーは優しくフレンドリーな方々だった。他にも 2 名の留学生が滞在しており、夕食の時に様々な話題について語り合うことが毎晩の楽しみだった。週末は 2 回あり、1 回目の週末はメインキャンパスの図書館で勉強した。勉強スペース、グループワーク用の個室、プレゼンテーション準備のスペース、カフェ、コンピュータ、プリンターなど、設備が整えられており、大変驚いた。週末でも図書館で勉強している学生が多かった。最後の週末は雪のためほとんど外に出られず、屋内で授業の予習復習とポスタープレゼンテーションの準備をしていた。今回の研修ではあまり観光をすることがなかったが、学校帰りにはよく **princes street** を歩いて街並みを楽しんだ。

この研修の魅力は法律英語を学べることにあるが、それらが実際にどのように使われているのかを講義で学び、ディスカッションやプレゼンテーションで自ら使うことで身につけることができる。最後の講義の後は金大生 8 名全員でランチを食べに行き、3 週間を振り返った。研修を乗り越え、それぞれ一つ成長できたと思う。

3 週間の研修を受けた Moray House school of Education。



学校からホームステイ先に帰る途中に撮った一枚。north bridge からライトアップした princes street が見える。



エジンバラ法律英語研修 事後報告書

(2017 年度：研修時法学類 2 年)

今回私がこのプログラムに参加した理由は、純粋にスコットランドに行ってみたかったこと、以前ホームステイをしたことがあるのでもう一度ホームステイをしてみたいと思っていたこと、そして何より、英語で法を学ぶことに強い関心を持っていたことなどが挙げられる。このプログラムはこれらの条件に合うものであったし、参加した甲斐があったと感じている。エジンバラは雨の日が多く、北陸と比較的似た気候でとても過ごしやすかった。古くから残っている建物が多く、どこを撮っても絵になる素敵な街だった。ほとんどの博物館や美術館が入場無料なので、放課後や週末は気に入った場所に何度も足を運んだ。エジンバラの人々はホストマザーをはじめとして親切な人ばかりで、バスに乗るとき必ず順番を譲ってくれたし、私の拙い英語にもきちんと耳を傾けてくれたので、初めは不安だけだったエジンバラでの生活にも割とすぐ慣れることができた。

大学では、スコットランドを中心に英国の司法制度について日本と比較しつつ学んだ。発音やアクセントといった英語を話すためのトレーニングもあった。ただ講義を聴くだけではなく、教授から質問を受けたり、逆に質問したりする形式で、普段の日本での講義より授業内容が頭に入りやすく、楽しかった。二週目からは 2 人 1 組でポスタープレゼンテーションとリサーチプロジェクトを行った。ポスタープレゼンテーションは 1 つスコットランドで実際に起こった判例を選び、ポスターにまとめて現地の法学部生の前で発表するというものであったが、現地の学生は矢継ぎ早に質問してくるのでそれらを一つ一つ聞き取って答えるのが一番大変だった。リサーチプロジェクトは、例年がない大雪で 3 日間休講になったこともあり準備不足だった点もあったが、LGBT についての意識調査を行い、多くの人の意見を聞いたことはとても良い経験になった。プレゼンに関しても、パートナーの協力のおかげで思ったより良いものができたと感じている。

また、授業の一環としてスコットランド議会と裁判所を見学した。スコットランド議会は建物自体が新しく、現代的なデザインで、所々にスコットランドにちなんだ工夫が見られた。議場は席に座ったまま投票ができるようになっていたり、カードで人を認証するシステムが導入されていたりと、日本の国会と比べると大分ハイテクだと感じた。裁判所は、最高裁判所と高等裁判所の二ヵ所見学したが、最高裁判所の議会跡地は偉大な過去の裁判官や弁護士などの肖像画があって、まるで美術館の様だった。高等裁判所は最高裁判所よりも比較的新しい建物の様だった。そこでは刑事裁判を傍聴したが、私の英語力では詳しい内容までは理解できなかったが、議場の中央で弁護士たちがパソコンに向かっていて、想像していた雰囲気とは異なっていた。また機会があれば日本の裁判所も見学し、その雰囲気をスコットランドの裁判所と比べてみたいと思った。

この研修では、自分の英語や法に関する知識不足を実感したことも多かったが、この経験は自分の進路選択において大いに役立つと確信している。今後もこれを無駄にしないように精進していきたい。



←プリンシズストリートで見た夕焼け



バルモラルホテル→



←英国といえばアフタヌーンティー



グラスゴーで見たステンドグラス→

事後報告書

(2017年度：研修時法学類2年)

エジンバラ法律英語研修の通常の講義の内容として大まかなものを挙げますと、(スコットランド、またはイギリスの) 法律専門職、裁判所、刑法、民法、制定法といったところだったと思います。どれも特別英語が得意なわけではない私が理解するには難しい内容でしたが、だからこそ何とかついていこうともがいたことで日本にいては得られなかったであろう力をつけられたかと思います。講義形式以外の授業では、裁判所や議会に訪れました。こういった場所も機会を設けられないとなかなか訪れることはないのではないのでしょうか。プレゼンテーションはポスタープレゼンとパワーポイントの二種類ありました。この二つが僕にとって今回の研修で最も大変で、同時にためになったと考えられることです。特に質疑応答の時間は難しい内容で、実際のコミュニケーションに近い能力を求められたのでとても難しかったです。また、パワーポイントのプレゼンでは市街地でのインタビューなど、より綿密な準備が求められました。こういった取り組みによって英語力はもちろん、コミュニケーション能力が予想以上に磨かれるのもこのプログラムの魅力だと思います。

さて、次に自由時間についてですが、主に観光をしていました。エジンバラは街全体が中世ヨーロッパを思わせる街並みで、とても綺麗な良い街でした。授業がある日の初日はエジンバラ街のバスツアーがありました。中心街は本当にどこを見ても物語に出てきそうな風景が広がり、僕としては大満足でした。ホストマザーの家は中心からそれなりに離れているのですが、住宅街も可愛い雰囲気の家々が並んでいてすごく見栄えがしました。エジンバラの街自体が見ごたえのあるものなので、それがこの研修のオススメポイントの一つです。

エジンバラ以外では、スコットランド経済の中心地グラスゴーに行ってきました。治安はエジンバラより悪いと聞いていましたが、特にそういったことは感じませんでした。お買い物をするならグラスゴーだと思います。イギリスには日本の学生にも人気な有名ファッションブランドが数多くあるので、そういったものに興味のある人はとても楽しめるかと思います。日本で買うよりも3割から4割ほど安く買えました。

最後にホームステイについてですが、僕のホストマザーはありがたいことにとっても良い人でした。ディナーの時間にはたくさん話してくださって、日常会話の良い練習になりました。出てくる料理も美味しかったです。イギリスの料理は不味いと聞いていたので安心しました。失敗したことといえば持ち物です。洗濯の回数は多くないので下着は七枚以上ないと現地で買う羽目になるかもしれません。あとはバスタオルですが、僕の受け入れ先は持参だったのでこれも十分持ってこないで現地で買うことになります。

色々書きましたがこの語学研修では初めて体験を多くできて、人生の経験値として有意義なものになったと思います。一度でもこのような経験ができてよかったと感じています。



夜のエジンバラ街（通学路）

グラスゴー大聖堂
（大雪で閉っていました。中はステンドグラスが綺麗だそうです。）



エジンバラ大学法律英語研修 事後報告書
(研修時2年)

私は、2月19日から3月9日にかけてイギリス・スコットランドにて行われた、エジンバラ大学法律英語研修に参加した。

エジンバラ大学では、週5日、1日2~3つの授業を受けた。授業では、イギリス・スコットランドの法の成り立ちや法制度の概要、刑法・民法、裁判制度などについて幅広く学んだほか、スコットランドの著名な判例についてのポスタープレゼンテーションと、法律にかかわる問題をテーマとしたリサーチプロジェクトを実施した。また、学校外での学習として、裁判所・議会見学も行った。

今回の研修の大きな特徴の一つは、単なる語学研修ではなく、法律英語を学ぶことができたことであった。実際に、現地では、法律に関する専門的な用語の定義や発音の仕方を教わりながら、イギリスやスコットランドの法律について学ぶという、中身の濃い授業を受けることができた。授業では、事例問題についての意見交換のために、学生同士で話し合う機会も多かったのだが、議論が詰まり、グループのメンバーみんなが無言になってしまうこともあった。しかし、先生方から、質問の仕方や、意見がまとまらないとき・答えが思い浮かばないときの会話の仕方などを教えていただき、少しずつ発言できるようになった。ここで学んだ会話のテクニックは、今後も活用したい。



授業の一環で行った二人一組でのリサーチプロジェクトは、法律に関係のあるテーマを



決め、それに関する質問を考えて街頭インタビューを実施し、その結果に基づいて英語で15分間のプレゼンテーションをするというものだった。このような課題に取り組んだのは今回が初めてで、不安もあったが、プレゼンの構成の仕方や話し方を教わり、ペアの学生と準備を重ねて何とかやり遂げることができた。プレゼンの後に担当の先生から頂いたアドバイスは、今後のゼミなどでの発表に生かしていきたい。

スコットランドの歴史や文化に触れることができたのも、今回の研修の成果の一つである。放課後や週末には、エジンバラや隣町のグラスゴーを歩いてまわり、歴史ある街並みを眺めたり、博物館や美術館を訪ねたりした。ホームステイ先では、いくつかのスコットランドの伝統料理をごちそうになった。エジンバラ大学の学生に

ダンスホールに連れて行ってもらい、Ceilidh (ケイリー) という伝統的なダンスを現地の方々と一緒に踊ったことも、印象に残っている。

初めてのホームステイからも、多くのことを学んだ。ホストファミリーとの会話を通じて、今よりしっかりと自分の意見を持ち、将来設計を考えていかなければいけないことを実感した。また、私のステイ先には多くのルールがあり、ステイ先のものを使うときに、「使っているのかな、どうやって使うべきなのかな」と戸惑うことが少なくなかったのだが、

エジンバラ大学法律英語研修 事後報告書
(研修時2年)

このようなときには、不安なままにせず、まず聞いてみるのが、ホストファミリーとよりよい関係を築くためにも、会話の機会を増やすためにも大切な姿勢なのだと学んだ。

研修期間中、イギリス全土を数十年ぶりの寒波が襲い、授業の休講や、楽しみにしていたロンドン旅行の見送りなどのハプニングも起こったが、それもまた貴重な経験となった。

今回の研修は昨年度と比べて参加者が少なく、一時は実施が危ぶまれたが、無事に三週間の研修を終えることができてほっとしている。

エジンバラで過ごした三週間は、毎日が充実していた。研修を通じて、今後の英語学習や、法律の勉強への意欲も高まった。

研修で学んだことを忘れずに、大学生活を送りたい。



・参加理由

私は、このプログラムに限らず、私は留学自体に興味があり、大学生になったら一度は留学を試みたいと思っていました。さらに、私は、入学前に金沢大学についてリサーチしているときにこのプログラムがあることを知りました。その時から、このプログラムに興味を持っていました。しかし、法律に関する知識は、そんなに持っていないということや、自分の英語力に自信がなかったことなどから、参加しないでおこうと考えていました。ですが、もしここで、参加するのをやめたら、また、来年再来年まで先延ばしにして結局留学しないまま、大学生活を終えるのではないだろうかと思ったこともあり、このプログラムに参加することを決めました。

・授業について

留学する前から、オンラインで英会話をやったり、法律関係や自分のわからない単語を取り上げた単語帳を作ったりしていました。そのおかげで、授業内容が全く分からない、授業についていけないということはありませんでした。しかし、授業中に発言しなければいけない場面では、自分の考えていることをうまく英語で伝えることができず、ペアの人の話や、周りの人の意見を聞くことが多くなってしまったことが、少し心残りです。

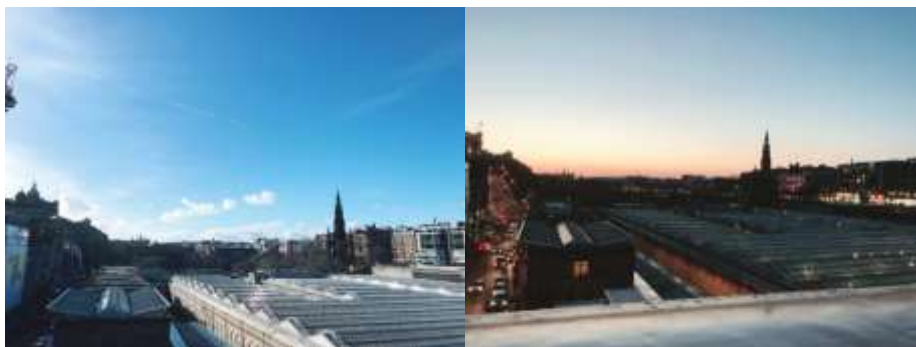
また、授業では2回プレゼンを行いました。プレゼンの準備は大変なことも多かったり、判例を読み解いたりするのが難しかったです。また、少ない人数の前とはいえ、人前でプレゼンを行うのは緊張しました。しかし、多くの方から、プレゼンの内容やレイアウトなどにたくさんのアドバイスをいただいたのがよかったです。今後、プレゼンを行う時に活用できそうです。失敗もいくつかありましたが、たくさんのことを学びました。また、プレゼン準備のために、現地の人にインタビューを行いました。英語で知らない人たちにインタビューするのは、とても緊張しましたが、皆さんとても丁寧に対応してくださいました。インタビューの仕方や、話すときに気を付けるべきことなど、多くのことを教えていただきました。

・ステイ先について

私のホームステイ先では、特にホストマザーがいろいろな話をしてくださいました。私が法学を勉強していることを話すと、それに関係するような内容の話をたくさんしてくださいました。また、ホストマザーから、その話についていつも意見を求められたので、自分の考えをなんとか英語で説明しようとする力が付きました。話の内容的に、自分の意見をすらすら話すことは難しかったですが、辞書などを使って何とか伝えることができました。話の内容は、少子化、核保有、教育制度などでした。学校の授業でももちろんですが、それ以上にホストマザーとの会話で、事前研修の内容が役に立つことも多かったです。

・週末について

週末は、基本エジンバラ市内の観光がほとんどでした。二週目の週末ロンドンへ行く予定だったのですが、雪で電車が止まって行けなくなったのは、残念でした。エジンバラの街並みがとても素敵で、普段は写真をほとんど撮らないのですが、エジンバラではたくさん写真を撮りました。



エジンバラで見た景色の中で、Northbridge から見えるこの景色が一番好きでした。

・まとめ

今回の研修に参加して、とてもよかったと思います。この研修で、私は特に、自分の英語力がまだ足りないことを強く感じました。これからも英語の勉強は続けていきたいと思えます。

最初は、勢いで応募したところもあって、不安しかありませんでした。しかし、参加を迷ったときに、後回しにしないで、今回参加してよかったと感じています。

今年、このプログラムに参加した人は 8 人で、人数が少なかったのもっと多くの人に私は参加を勧めたいと感じました。

エジンバラ法律英語研修 事後報告書

法学類一年

この研修では、イギリスまたはスコットランドの法律や政治に関する分野を学びました。また、午後の授業では英単語にストレスをつけて発音する練習や人前ではきはきとしゃべるコツなど、主にプレゼンテーションに関することを学びました。その他にも、ホームステイ先や放課後の時間の活動を通して、スコットランドの文化を身をもって体験することができました。ここでは、エジンバラ大学での授業と課外活動の二つの観点から、エジンバラでの生活を振り返りたいと思います。

(大学での授業)

三週間の研修でしたのである特定の分野を深く学ぶのではなく、民法と刑法の違いやその特徴、法曹の種類など、その国ではある程度一般常識と考えられる範囲を学びました。例えば、裁判官になるためには法廷弁護士としての経験を多く積まないといけないことなど、日本とはそもそも根底の考え方が違うのだらうな、と思わされるものもいくつかありました。そのような違いを発見するたびに、外国法を学ぶ楽しさを感じることができました。あたり前の話ですが、外国の法律を学ぶときは日本の法律と比較することが有効です。私は、一年生で刑法などはあまり習っていなかったこともあり、日本のことを聞かれたことに答えられないことが多々ありましたが、先輩方にカバーしてもらいました。

午後の授業では、自分で好きなテーマを選び、それについてのプレゼンテーションをしました。私は、尊厳死というテーマを選び、街頭インタビューやパワーポイントの制作をしました。もちろんすべて英語ですが、スライドの作り方のコツや発表の仕方など、日本に帰ってからも役立つこともたくさん学びました。



(放課後の活動)

第一にホームステイ先での生活です。私は英語に自信がなく、ホストファミリーとうまくコミュニケーションがとれるか心配でした。ですか、ホストファミリーはとてもフレンドリーな方で気さくに話しかけてくれました。ただ、自分が思っていることをうまく英語に変換できずにもどかしく思うこともしばしばありました。ホストマザーは家に出る前と寝る前に毎回ハグをしてくれて、その習慣が私は大好きでした。

次に週末の時間の使い方についてです。国立博物館やアーサーズシートなどたくさんの観光地に行きました。エジンバラは無料で入ることのできる公共施設がいくつかあり、国立博物館もその一つでした。世界初の蒸気機関車の巨大模型やクローン羊ドリーなど興味をそそられる展示がたくさんありました。エジンバラの街はそのほとんどが歴史的なレンガ造りの建物や石畳に包まれており、風景を眺めるのが好きな私にとっては毎日が夢のような気分でした。



研修に参加した理由

大学生の長い春休みを利用して、普段は体験できないことをしてみたかったこと、日本の法制度と他国の法制度の違いを学んでみたかったこと、何より海外、特に欧州に行ってみたかったことが動機でした。

実際に参加してみて

私自身、海外に行った経験がなく、英語が得意ではなかったことから、行く前に大きな不安を抱えていました。然し、授業に関しては先生により分かりやすい英語で、インタラクティブに進行していただけましたので、理解はしやすいと思います。また、分からないところがあれば授業外でも E メールで答えていただけますので、極めて助かりました。英語による、ポスタープレゼンテーションやインタビューを利用した最終プレゼンテーションが授業の核として設けられているのですが、その際の先生方による発音矯正や、インタビューでスピーキング力が格段に向上できたと考えています。

また、予想していたよりも現地の人々が優しく、バスの中やお店で、勝手がわからない私を幾度となく助けてくれました。個人的にうれしかったこととしては、イギリスの通貨はデザインが頻繁に変わることもあり種類が豊富なため、慣れていないと支払いが難しいのですが、ちょうど払えた際には「perfect!」と褒めていただけることです。

エジンバラの街並みは世界遺産に登録されており、古き良き景観に囲まれながら授業や生活ができますので、良い気分転換になりました。

**←エジンバラ市街**

エジンバラの街はどこもこのような街並みで、大変美しいです。



←クリームティー

スコーン付きの紅茶の事です。クロテッドクリームとジャムを塗って食べるととてもおいしいです。

後輩へ

研修に参加するにあたって、私自身大きな不安がありました。参加しようと思いつき、実際参加してみたところ、事前研修から現地の授業を通して幾度か困難はありましたが、最終的には何とか乗り越えました。エジンバラ研修は大変ではありましたが、大変有意義な経験であったことは間違いありません。少しでも**“参加してみたい！”**という気持ちがあれば、参加しておくことをお勧めいたします。